

## レント、そして十字架

川口基督教会牧師 司祭 ステパノ 柳 時京

コロナ禍の最中で今年の大齋節を迎えています。昨年この時期は緊急事態宣言下において、大齋節どころかイースターまでも守れないままでした。幸いにも今年は3月7日から礼拝を再開して、大齋節第3主日からともに集い、礼拝を行っています。是非イースター礼拝ができるよう、心から願います。

大齋節を迎えるに当たって、レントの主なテーマの一つである誘惑と欲望について論じた文章を、かつて読んだ本で見つけました。1954年に初版が出され、70年代に再版されたので、もう古いかも知れません。しかしながら、人間の欲求について書かれた古典的な文章で、今読んでも違和感のない分析に思えますので、ご紹介します。

探し出したのは、アメリカの心理学者のアブラハム・マズローによる「動機と性格」という本です。日本語訳本としては「人間性の心理学 モチベーションとパーソナリティ」というタイトルで刊行されました。

マズローは、人間には5段階の欲求があると説明します。通称「マズローの欲求のピラミッド」と呼ばれます。その第一は、生理的な欲求です。肉体のニーズを満たす食事への欲求などです。飢えている人には食べ物こそ天国です。第二は、安全への欲求で、全ての人間は雨風を逃れる住まいを求めます。第三の欲求は、所属感と愛情とを求める欲求です。自分のルーツを確かめて、人に求められる存在になりたいがる。性的欲求もここに含まれます。第四の欲求は、尊敬への欲求です。人に好かれ、褒められ、賞賛されることを望む欲求ですが、これにはそれなりの努力が伴わなければなりません。第一から第三までの基本的な欲求とは違って、全ての人に許されるものではありません。あくまで尊敬されるということは、自分だけで出来るわけではなく、人からの尊敬でなければならないため、かなりハードルの高い欲求です。

マズローは、最後にもうひとつ欲求があると言います。いわゆる自己実現の欲求です。前の4段階の欲求が満たされれば、人は一定の満足に到達するので、人によってはこれ以上の欲求を持たない、求めないケースも多いと言います。自己実現の欲求は、人間として存在の価値を高め、問題解決や創造を目指すことなので、4段階で止まる人にはつかめない世界でしょう。

私は、信仰の世界はこの第5段階に関わるものだと思います。マズローは5段階のこれをも欲求と言いましたが、むしろこれは欲望の性質をもつ欲求とは違って、価値を目指す精神の領域です。大齋節中に私たちは「己に勝ち、肉の思いを主のみ霊に従わせる」(大齋節第1主日特禱)ように祈ります。そして、私たちが目指すキリスト者としての自己実現の目

標は、イエスの十字架の道へといざなわれます。

**「キリスト・イエスのものとなった人たちは、肉を欲情や欲望もろとも十字架につけて  
しまったのです。」(ガラテヤの信徒への手紙 5:24)**

(川口基督教会 牧師)